

大学日本語コース用漢字教材の開発
 —学習者からのフィードバックを基に—
 DEVELOPMENT OF KANJI LEARNING MATERIALS FOR
 UNIVERSITY JFL COURSES: FOCUSING ON LEARNER FEEDBACK

矢吹ソウ典子・犬塚久美子, ヨーク大学
 Noriko Yabuki-Soh, Kumiko Inutsuka, York University

1. 本研究の背景および目的

本研究は、大学の日本語コース用に作成した漢字教材の有効性と学習者が考える効果的な漢字学習法を、アンケート調査を基に考察するものである。グローバル化に伴い学習者の言語的背景や学習環境のテクノロジーが多様化する現在、日本語コースで扱う教材もそれに対応していく必要がある。漢字教材に関しても、市販の教科書等では個々の日本語コースのコンテキストにそぐわないことから、独自の教材を開発し常に改善を加えていくべきである。また、学習者の言語的背景によって漢字学習への姿勢が異なることが予想されるため、多様な学習者のニーズについても調査し、それに即した教材作りに取り組むことが重要である。

当大学の日本語コースでは、上級コース（三年生）の終了時に 1000 字の漢字導入を目標に、独自のオンライン教材に準じた漢字リストを開発し、三年前から使用している。使用開始から一年後に、コースで行なう毎週の漢字小テストの結果を新教材の導入前後の年で比較したところ、新漢字リストを使用した年の平均点が高く、導入された漢字の選択等が学生の漢字学習により効果的であったことが示唆された。また、当時のアンケート結果（回答者 24 名）によると、学生はおおむね好意的に新しい漢字教材を受け入れていることがわかった。そして学生がより身近に感じられる語彙の選択や読解教材との関連、書き順のわかりやすい提示等が望まれていることが明らかになった（矢吹ソウ&犬塚、2014）。本研究では、中級コースの漢字リスト（導入数：400 字）がこの二年間にどう改善されてきたか、また新教材に対する学習者の感想と漢字学習のストラテジーについてのアンケート調査の結果について報告する。


2. 新漢字リストについて

新リストで改善した主な点として、まず個々の漢字の導入順序が挙げられる。一般的な使用頻度を考慮した上、難度の低いものから高いものに従って導入することに加え、なるべくコースのテキストで使われる字に基いた導入順に変更した。例えば、従来の漢字の教科書では後半に出てくる「不動産」などの漢字と語彙は「貸家探し」のテーマを扱った課に合わせて導入した。年間を通して導入する漢字の全体の表に通し番号をつけてそれぞれの漢字の位置を見つけやすいようにした上、個々の漢字にリンクをつけて各漢字の上にある番号をクリックすると該当の漢字リストへ飛べるようにした。表 1 は新漢字リストのために作成した全体の表の一部である。

表1 新漢字リストの表 (JP2000 最初の 40 字)

121-130	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130
	正	校	風	変	員	都	字	世	漢	申
131-140	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
	自	信	己	交	官	館	専	問	開	閉
141-150	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
	合	題	家	族	転	方	士	仕	感	春
151-160	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
	夏	秋	冬	供	部	不	重	動	働	産

また自習用副教材として、例文に絵や写真をつけたパワーポイントのスライドも作成し、学生が自分で読みの練習ができるようにした (図1参照)。



- ドアが閉まります。
- まどの開閉はこのボタンをおして下さい。




図1 パワーポイントのスライドの例 (部分)

表2は漢字リストの「始」の字の例である。個々の表で紹介する例語・例文の改善点については、例語は数を必要最小限にし (基本的に Core Words が二つ・ Useful Words が二つ)、例文は極力短くなるべくテキストからのものに変更し使用されている箇所を明記した (例「仕事探しを始めました」(L29R) : L29Rは「テキスト29課の読解」の意味)。また従来は広範囲だった漢字小テストの出題は Core Words と例文1からのもの限定して行なうこととした。その他の改善点として、YAMASA 言語文化学院の許諾を得て、個々の漢字書き順アニメーションへのリンク (<http://www.yamasa.org/ocjs/kanjidic.nsf/SearchKanji3?OpenForm>) を追加した。

表2 新漢字リストの「始」の例

#333	シ はじ (まる) 、はじ (める)	すう 画数	部首	こうせいようそ 構成要素
始	始 start, begin	8	おんなへん	女+台→始
	始			
Core words	始まる はじまる 開始 (する) かいし (する)	start, begin beginning, opening; begin, open		
Useful words	始業 しぎょう 始末 しまつ	the start of work circumstances, management		
例文	さが 仕事探しを始めました。 (L29R)	(She) has started job hunting.		
例文	しき 始業式は午後1時に開始します。	The opening ceremony will start at 1pm.		

3. アンケート調査

本研究のアンケートは、新漢字リストに対する学習者の感想および学習者が役に立つと思っている漢字学習ストラテジーについて調査した。対象としたのは、当大学で2014年から2016年の日本語コース二年生 (JP2000) を履修した学習者のうちアンケートに回答した57名である。実施方法としては、一年間の授業履修後、ムードルを使用して各学習者に個人的にアンケートの記入を依頼した。学習者には今後の漢字リストの改善のための調査だと伝え、記入は各個人の意思に任せた。また設定を無記名にしたため、調査者には誰が何を記入したかは分からないことも伝えた。

質問項目は英語を使用し合計34問で、(1) 漢字リストおよび自分の漢字学習について、5段階のリッカー尺度を利用し全体的な傾向を見る項目と自由回答の二種類の質問を使用、また(2) 漢字学習の際のストラテジーについては、Gamage (2003) の質問項目を基に、学習者が使用している漢字学習法に関しての質問を5段階のリッカー尺度を利用して調査した。これらは漢字の形・意味・読みについてそれぞれどんなストラテジーを使って勉強するのが効果的かを問う項目である。

Gamage は、オーストラリアで日本語を学ぶ大学生を対象に、初級終了時点 (120 字の漢字履修後) にアンケート調査を実施した。特に学習者の言語的背景、つまりアルファベット圏であるか非アルファベット圏であるかが、学習者の好む漢字ストラテジーに影響を及ぼすかどうかに着目した。結果として、繰り返し書いて覚える方法が最も頻繁に使用されている (“... rely more on rote learning skills” (Gamage 2003, p 10)) ことと、学習者が有効だと思うストラテジーは言語的背景の異なるグループ間で有意差が見られることが明らかになった。初級程度の漢字はあまり複雑な形のもの少なく画数も少ないため、機械的に繰り返し覚える方法が一番効果的であると考えられる。では、画数が増え複雑な形の漢字を多く覚えなければならぬ中級 (520 字を履修した時点) 以降でも、同様のストラテジーが有効だといえるだろうか。また、学習者には他にどのようなストラテジー

が有効だと考えられているだろうか。以上のことから、中級以降の学習者を対象にした漢字学習の調査が求められる。

4. 結果

4.1 学習者の背景

まず学習者の背景として、大部分（57名中48名・84%）がそれ以前に一年生のコース（JP1000）を取得していることがわかった。また、授業以外で漢字との接触があり普段よく使うと答えた学習者が16名（28%）、少しあると答えた学習者が16名（28%）、残りの25名（44%）は漢字との接触がないと回答した。この結果を基に、回答者全体の反応を分析する他に、接触がありよく使うと答えた学習者と、ないと答えた学習者をそれぞれ「漢字の知識あり」と「漢字の知識なし」のグループとし、漢字の知識の有無が結果に影響があったかも分析することとした。

4.2 新漢字リストに対する反応

漢字リストへの反応については、学習者が全体として漢字学習と新漢字リストにどんな反応を示しているかの質問への答とコメントを基に分析する。5段階のリッカード尺度は、例えば「二年生の漢字の学習は量が多いから大変である」という質問に対し、「非常に同意できる」「同意できる」「どちらとも言えない」「同意できない」「全く同意できない」をそれぞれ5、4、3、2、1で選択するようにした。

まず、学習者の漢字学習に対する反応としては、一年生に比べ二年生で暗記する漢字の数が多いと思っている学習者は、「非常に同意」と「同意」の合計が50名（88%）と、大多数であった。JP2000の漢字学習が難しいのは暗記しなければならない数が多いためだと答えたのが「同意」と「非常に同意」を合わせて40名（70%）であった。これに比べ、その他の理由（漢字の導入順序、例が少ない、読みものとの関連性がない）は同意の割合が少なかった（それぞれ23%、23%、39%）。すなわち学習者が一番困難だと感じているのは履修すべき漢字の数の多さで、他の要因はそれほど影響を与えていないと考えられる。また、漢字学習に対する反応では、学習者の漢字の知識の有無による違いはほとんど見られなかった。

自分で漢字学習にかかる時間数と努力度に関しての自由回答では、満足していると答えた学習者が多数、ちょうどよかったと思う、時間をかけただけ効果があったという回答も多くあった。その一方で、複数の学習者が不満だと答え、もっと時間をかける必要があった、時間をかけた割に記憶に残らなかったという回答も見られた。満足と不満が混ざった意見もあり、漢字学習に対する学習者の反応の複雑さが示唆される。以下は、両方混ざった回答の例である。

The time that I spent studying always paid off, and I never felt as if studying the Kanji each week was something that I didn't want to do. The biggest problem is that despite there being a Kanji quiz every week, they make up only a very small percentage of one's overall mark. I think that if so much emphasis is going to be

placed on Kanji then the quizzes should be worth more of the final grade. ... despite a lot of time spent, I found that when the time came to write a test, I had forgotten a good chunk of kanji. However, what I did retain, I retained very well and concede that the way it was presented by the instructor was very good.

新漢字リストの良いと思った点として自由回答で得られたコメントでは、全体のリストがあらかじめPDFで提示してあることやレイアウトやフォーマットがわかりやすく適切であるといった機能的なものから、該当年の漢字小テストでは Useful Words は暗記しなくてよいといったコースにまつわるものまでさまざまであった。細かい面では、部首が示されていること、リンクを通して書き順が見られること、三つの異なったフォントがあることなどの回答があった。個々の漢字が部首別に導入されていることや授業で扱う漢字と呼応していることが良いとしたものもあった。良い点で最も多かった意見は、例語や例文の内容が良かったというものであった。役に立つ、おもしろい、コンテキストにそっているなど、個々の漢字を効果的に覚えるためには適切な例語や例文が必須であることがわかる。また、本ではなくオンラインでいつでもどこでも見られるのが良いというコメントもあった。良い点についての回答例を以下に示す。

The Kanji Lists were fantastic, and contributed greatly to my learning experience. They were formatted very nicely and were easy to read, with lots of useful information, important words, and sample sentences. I also really liked that they were PDF files, which meant that I could put them on my phone and study them on the bus or anywhere else. I think that fact was important for my success on the quizzes, and isn't something that I could have done if I was dealing with a big book instead.

新漢字リストの良くないと思った点に関する自由回答では、導入する漢字の数が多すぎる、導入順序が易しいものから難しいものになっていない、授業で扱う漢字・単語とさらに関連づけてほしい、時々手書きとフォントの形が合わないケースがある、英訳でわかりにくいものがあるなど、さまざまなものがあった。例語・例文の量に関しては、数が多すぎるという意見と数が足りないという意見が両方見られた。良くない点は「なし」と答えた学習者も多数あった。良くない点で最も多かった意見は、日常であまり使われない言葉が入っているというものであった。以下はその回答例である。

I didn't like that there was alot [sic] of words that we wouldn't use in everyday life. I feel like we are learning too much vocabulary that is for reading at a high level as opposed to everyday conversation.

良くない点はどうすれば改善できるかという質問に対しての自由回答では、導入の順序を難易度や似た部首などに従って入れ変える、新出漢字は授業で繰り返し使う、もっと読解文に関連した導入の仕方をする、熟語になる漢字をなるべく併記するなどがあった。例語・例文の量については、増やすべきだという意見と

減らすべきだとする意見と両方であった。実質的な意見では、例文の英訳をもっと細分化する、個々の漢字の表に絵などを加えるといったものから、ワークシートやオンライン副教材をつけ足す、漢字小テストの回数や項目の数を見直すといったものまでさまざまであった。また解決法は「わからない」と答えた学習者も複数あった。その他、もっと日常会話でよく使用する漢字を選ぶ、例えば「定」の字の語彙には、「予定」などより、教室外でもビデオゲームなどでよく使う「設定」を導入してほしいという具体的な意見も見られた。

新漢字リストの内容に対する全体の満足度に関しては、「満足」「非常に満足」と答えた学生が26名(46%)で約半数となり、「やや満足」も入れれば55名(96%)と、大多数の学習者が現在の漢字リストに満足していることがわかった。

4.3 漢字学習のストラテジー

学習者がどんなストラテジーを使用して漢字を学習しているかは、質問に対する答を基に主に数量的に分析した。5段階のリッカー尺度は、例えば「漢字は絵と関連づけて覚える」という記述に対し、「非常に有効な方法で、よく使う」「有効な方法で、時々使う」「どちらとも言えない」「あまり有効ではないので、あまり使わない」「全然有効ではないので、使わない」をそれぞれ5、4、3、2、1で選択するようにした。

まず新しい漢字の「形」を覚えるのに役に立つ学習法として、Gamage (2003)の調査に準拠し、「絵などに関連づけて」「すでに習った漢字と関連づけて」「アルファベットと関連づけて」「同じ部首を持つ漢字とまとめて」「空中に指で書く練習をして」「書き順を暗記して」「紙に何度も手書きして」の六つのストラテジーの有効性を聞いた。

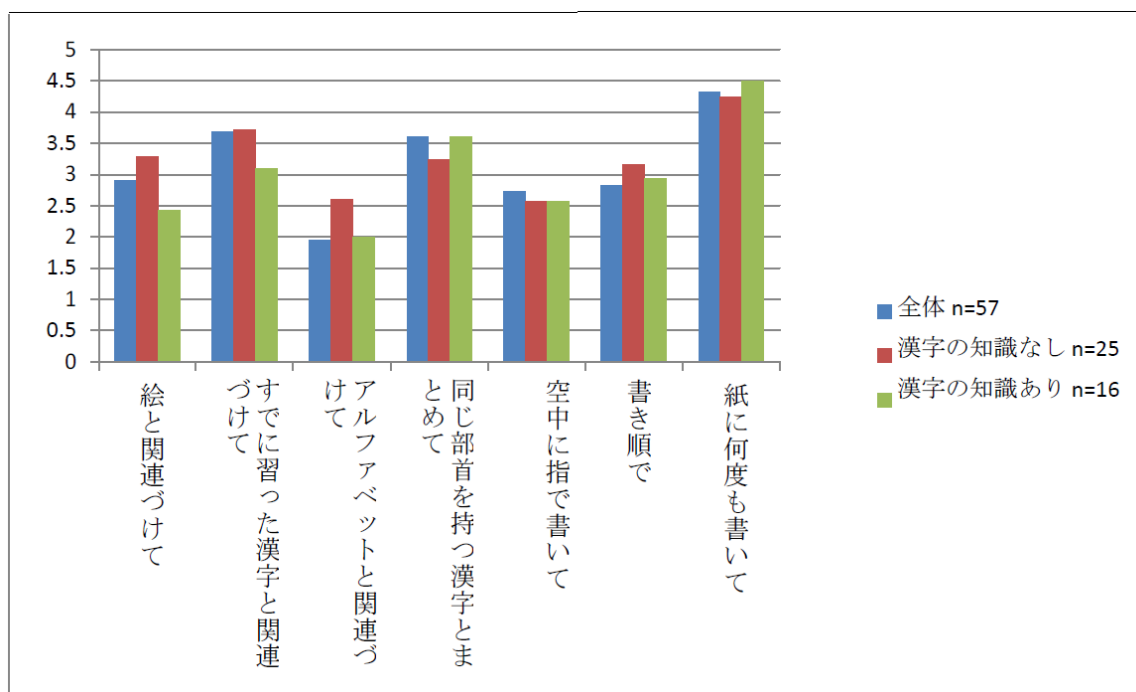


図2 漢字の形を覚えるのに有効なストラテジー

その結果、図2からわかるように、学習者が一番有効な方法として挙げたものが「紙に何度も手書きして」覚えるというストラテジーである。「絵などに関連づけて」覚える方法への評価は漢字の知識があるグループでの平均値が2.43なのに対し、知識のないグループの平均値は3.28、「すでに習った漢字と関連づけて」覚える方法は知識のあるグループが3.12に対して知識のないグループは3.72と、漢字の知識がないグループのほうが絵やすでに習得している知識に関連づけて漢字の形を覚えようとしている傾向があるようである。これは漢字の知識がないグループは漢字語彙の全体量が限られているため、すでに知っているものに新しい漢字を関連づけるのが他グループに比べて容易に感じられる可能性があると言える。

次に、新しい漢字の「意味」を覚える方法として、「似た意味を持つ漢字とまとめて」「意味と関連するストーリーを使って」「文の中の漢字として」「反対の意味を持つ漢字とまとめて」「意味を表す部首を使って」「紙に何度も手書きして」の六つのうち、学習者が一番好むストラテジーは、「紙に何度も手書きして」覚えることであった(図3参照)。他には「意味を表す部首を使う」方法や「文の中で」覚える方法も学習者が評価していることがわかった。グループ間では「部首を使う」方法や「似た意味を持つ漢字とまとめて」覚える方法にやや違いが見られた。これらのストラテジーも上に同じく学習者が持っている漢字の知識量に左右されるため、グループ間に差が生じてくると考えられる。

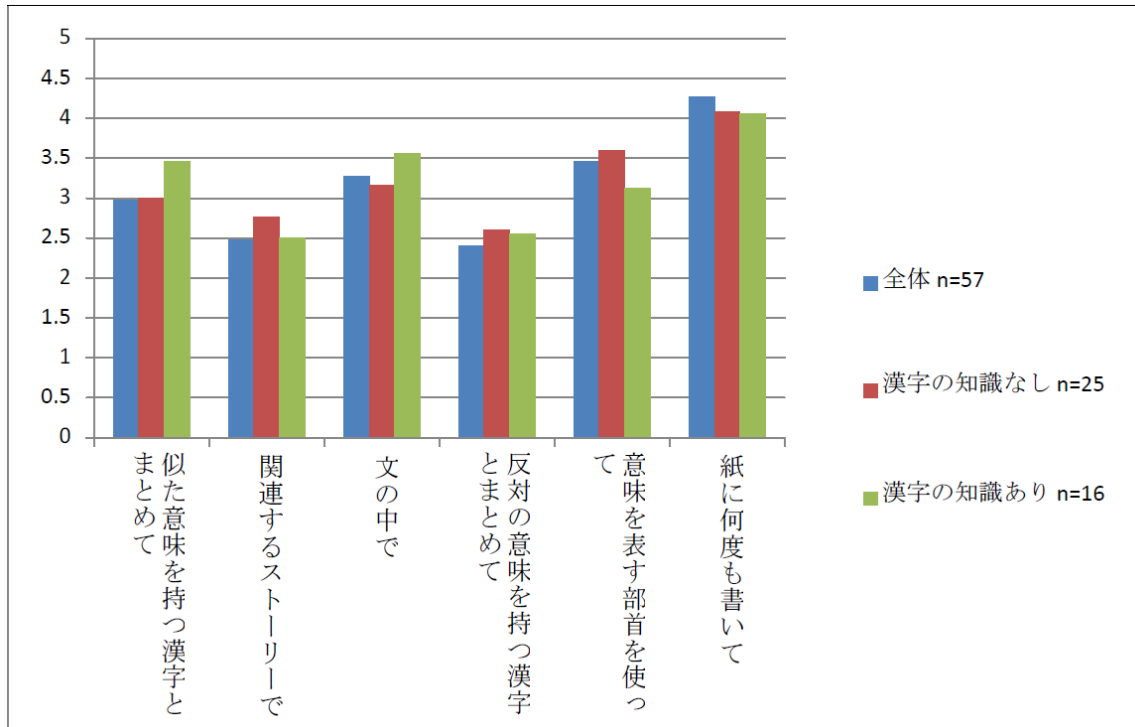


図3 漢字の意味を覚えるのに有効なストラテジー

新しい漢字の「読み」に関する学習法は、「同じ読みを持つ漢字とまとめて」「母語で似た読みのもと関連づけて」「単独の漢字でなく熟語の一部として」「同じ読みの部首を持つ漢字とまとめて」「声に出しながら、何度も見て」「声に出しながら、何度も手書きして」「音読みと訓読みをまとめて」の七つのうち、「声に出しながら、何度も手書きして」覚えるのが一番評価されていた（図4参照）。その他に「声に出しながら、何度も見る」方法や「単独の漢字でなく熟語の一部として」覚える方法が有効であるという結果が出ている。グループ間での違いを見ると、漢字の知識のあるグループは「自分の母語と似た読みの言葉と関連づけ」たり「同じ読みを持つ漢字とまとめて」覚えたり、自分のすでに知っている漢字の読みの知識を活用して新しい漢字の読みを学んでいる傾向が現れた。

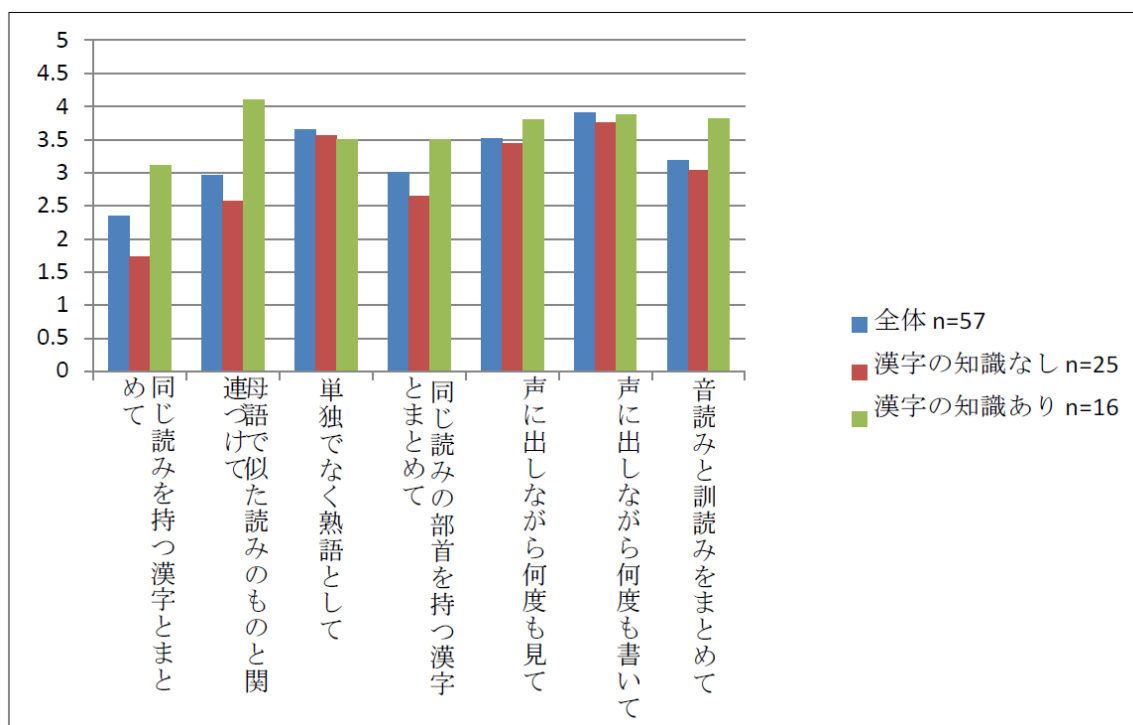


図4 漢字の読みを覚えるのに有効なストラテジー

学習者全体を通すと、「何度も書く」等の繰り返して覚える方法が一番評価されており、Gamage (2003) の結果と同じく日本語の二年次の学習が終わった時点の学習者の間でも書くという単純作業を繰り返して覚える方法が最も好まれていることがわかった。またその他のストラテジーに関しては学習者の漢字の知識量によって有効性の評価に差があるようなので、この点に関しては更なる調査が必要であろう。また、特定の学習者を対象にストラテジーを教える訓練等も考える必要があると示唆された。

最後に、漢字学習に対する一般的な感想としての自由回答は、大事だ、楽しい、役に立つ、苦にならないという肯定的なものから、覚えることが負担だ、いつも

暗記に苦勞しているという否定的なものまでさまざまであった。以下はその回答例である。

I find learning the meaning of each kanji helpful in learning the vocabulary.
Combination of two kanjis with both meanings help decipher the meaning of the word

Essential, but there are way too many different meanings/usages of each Kanji, that don't get reused often. This often results in forgetting the Kanji by the end of the year/tests/afterward

その他の意見としては「大丈夫」という言葉で使う漢字を導入してほしいといった具体的なものも見られた。尚、漢字学習に対する感想では、漢字の知識の有無によるグループ間に違いは見られなかった。

5. 考察・今後の課題

新漢字リストについては、全体的に好評価であった。構成の分かり易さに加え、コンテキストを重視した例語や例文の内容がその主な理由だが、まだ不十分であるとの意見もあり、さらなる改善の必要があることが明らかになった。また、オンラインの特性を活かした機能も高く評価されていた。学習環境のテクノロジーの多様化に学習教材も適応していくことの重要性が示唆された。多くの学習者が初級コースに比べ中級コースの漢字学習を負担に思っている主な理由は、導入される漢字と関連語彙の数の多さによるものであった。現在の導入数（各週 20 字）を保ったままこれに対処するためには、導入順序や例語・例文の量や内容をさらに見直す必要がある。導入される漢字の語彙が日常生活において役に立つものであるかという点では、教師側の意図と学習者側の求めるもの間に若干の乖離があることも判明した（「設定」「大丈夫」の例など）。

漢字学習のストラテジーに関しては、中級レベルにおいても新しい漢字を何度も紙に書いて覚える方法が「形」「意味」「読み」のすべてにおいて最も有効だと考えられているなど、学習者が多用する漢字学習法として Gamage (2003) を裏づける結果が得られた。使用するストラテジーに関してグループ間で違いが見られるものもあったため、教師は異なる言語背景を持つ学習者がどのようなストラテジーを多用しているのかを踏まえて指導にあたる必要がある。その他のストラテジーとしては、視覚に訴える方法よりも、コンテキストに関連づけた方法や、意味の暗記や発音の繰り返しなどの「地味な」方法が学習者に有効とされていることがわかった。今後の課題として、このようなストラテジーを補佐するための教材内容の見直しや副教材の開発なども考えられる。

結論として、より効果的な漢字教材の開発には、内容や機能を学習者の背景やテクノロジーの多様化等に合わせ充実させることに加え、使用する学習者の見解も考慮し改善を重ねていく必要があることが示唆される。

参考文献

- 矢吹ソウ典子・犬塚久美子（2014）「大学日本語コース用漢字教材作成・使用の
試み」 Proceedings of the CAJLE 2014, 200-209.
- Gamage, G. H. (2003). Perceptions of Kanji learning strategies: Do they differ among
Chinese character and alphabetic background learners? *Australian Review of
Applied Linguistics*, 26, 17-31.